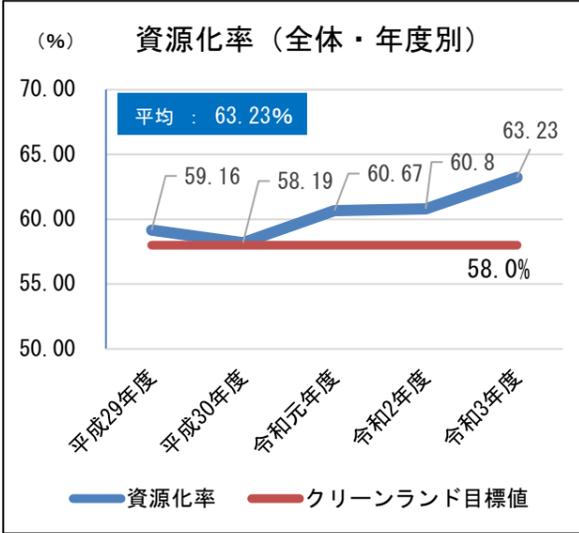
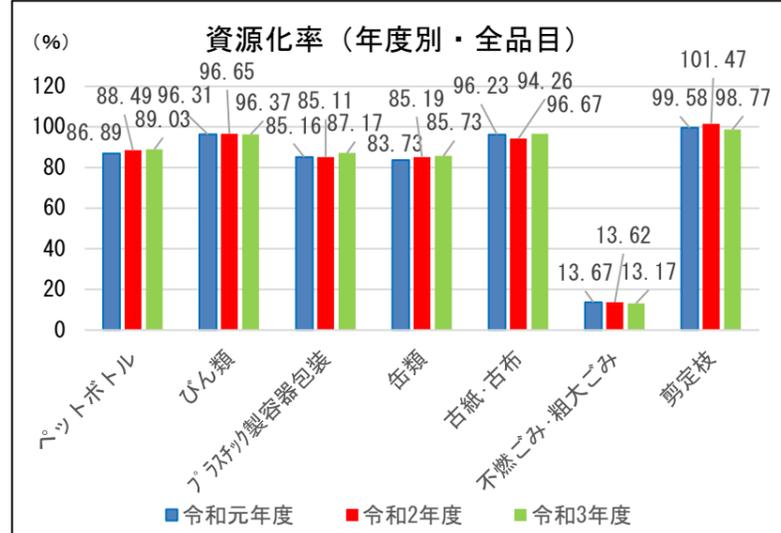


令和3年度(2021年度) リサイクルプラザ 内部モニタリング結果

1. 資源化



【評価】

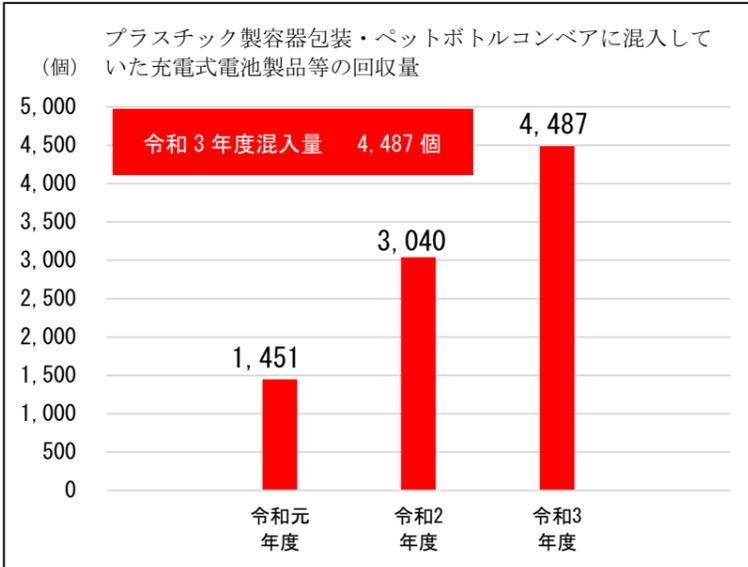
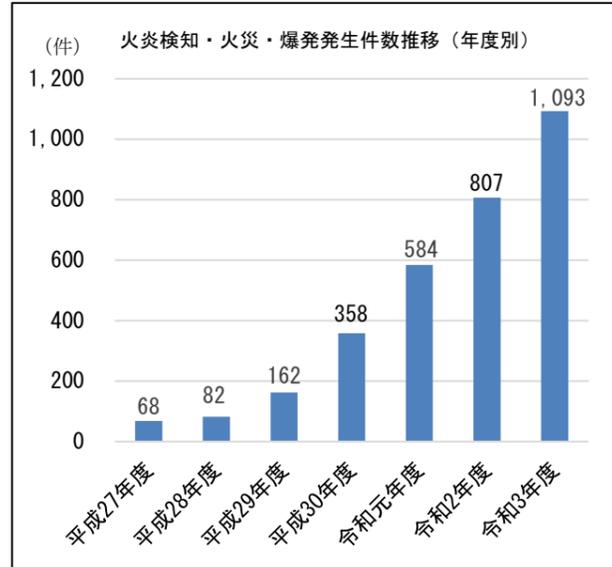
- リサイクルプラザの資源化率は今年度 63.23%と昨年度の 60.80%から更に向上した。ペットボトル、プラスチック製容器包装、缶類、古紙・古布の資源化率が向上しており、これまでの市民啓発の効果が表れているものとする。

《令和4年度(2022年度)における対応》

- 引き続き両市と搬入物検査を実施し、不適正品目の混入低減や適正な分別排出に向けた啓発を行うとともに資源化率の向上に努める。

2. 事故・故障 【労働災害0件】

火災検知・火災・爆発(ごみ処理停止に至ったケース) : 1,093件 (その他焼却施設への可燃搬送装置上での発火件数 22件)



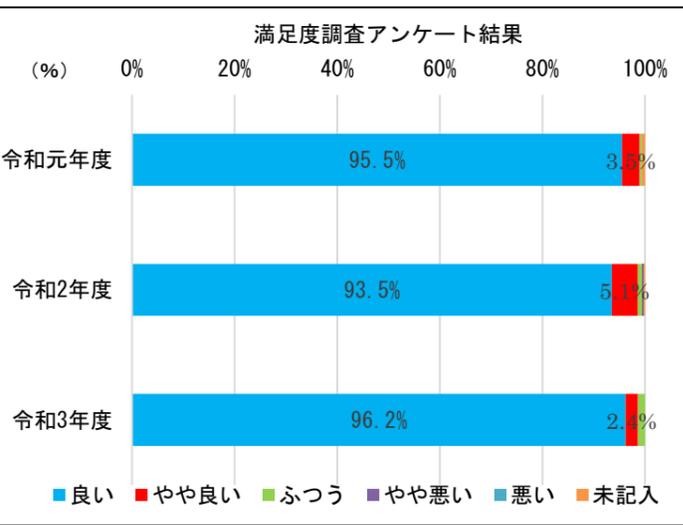
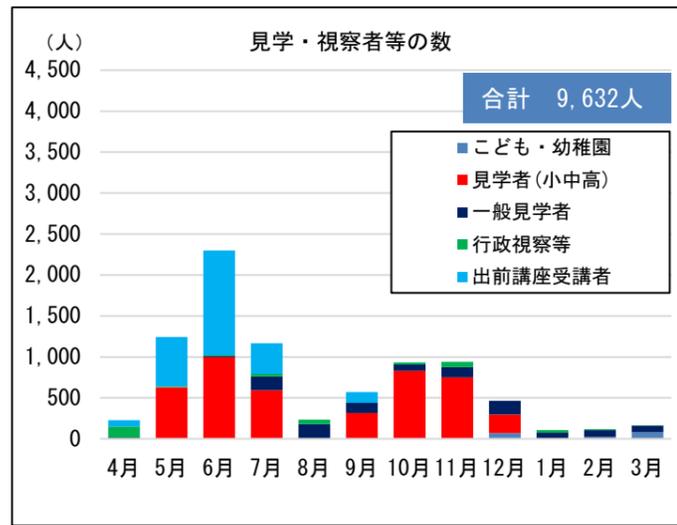
【評価】

- 昨年に引き続き労働災害が発生しなかったことは、作業従事者への指導や保護具の効果的な着用などが適切であったものとする。
- 消火設備増強工事の効果により、火災検知による施設への損傷低減と1件当たりの機器停止時間の短縮に繋がっているが1年間で169時間にも及ぶ運転停止で処理計画への影響が深刻な状況である。
- プラスチック製容器包装への充電式電池類の混入量が更に増加している。

《令和4年度(2022年度)における対応》

- リサイクルプラザにおける労働災害ゼロを継続するため、受託者に対して保護具の検証や作業手順の徹底等を引き続き指示する。
- 充電式電池を内蔵する小型家電製品の拠点回収について豊中市、伊丹市と協働して啓発し、リサイクルプラザの火災検知件数の低減を図るとともに、更なる消火設備増強工事を検討するなど施設の安定稼働を維持する。
- 火災の原因となる充電式電池等の分別収集など適正処理に向けた検討を豊中市、伊丹市と協働し進める。

3. 環境学習・啓発



【評価】

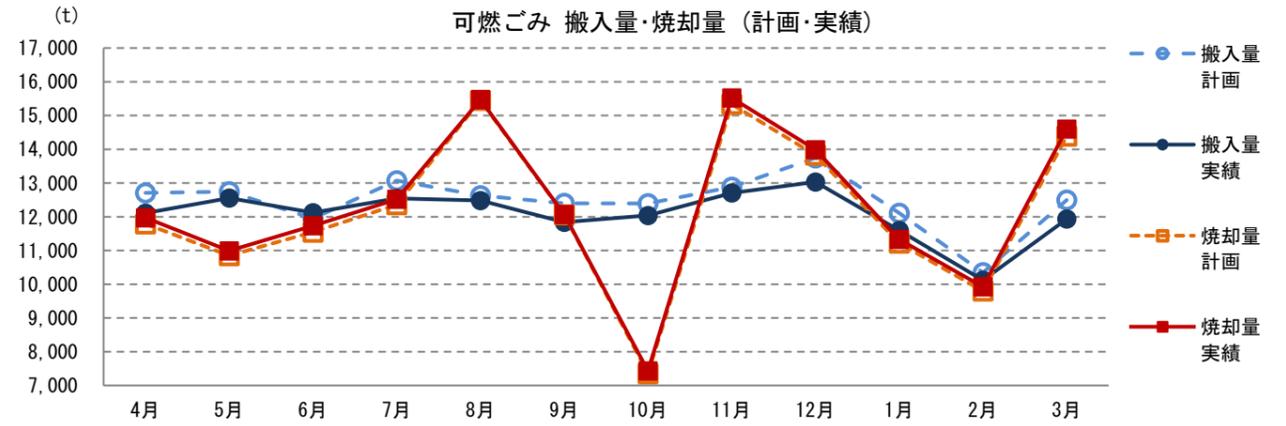
- 新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、社会科見学、出前講座、展望フロア一般開放デー、市民講座を再開したことで、前年度より来場者が増加となった。
- 来場者の満足度調査アンケートでは、引き続き概ね良いとの評価を得ている。

《令和4年度(2022年度)における対応》

- 引き続き新型コロナウイルス感染症の状況を注視し、安全な施設見学やイベントの開催について検討し準備する。
- リサイクルプラザと焼却施設、クリーンランドひろばを合わせた効果的な環境学習メニューを企画実施することにより、更なる来場者増を図る。

令和3年度(2021年度) ゴミ焼却施設 内部モニタリング結果

1. ゴミ焼却施設



(規制基準)

排ガス (煙突)	測定項目数	基準値判定	排水 (放流水出口)	測定項目数	基準値判定	焼却残渣	測定項目数	基準値判定
	7	◎		20	◎		10	◎

◎すべての項目において基準を満たしている。※測定項目、基準値については、ゴミ焼却施設モニタリング詳細を確認。

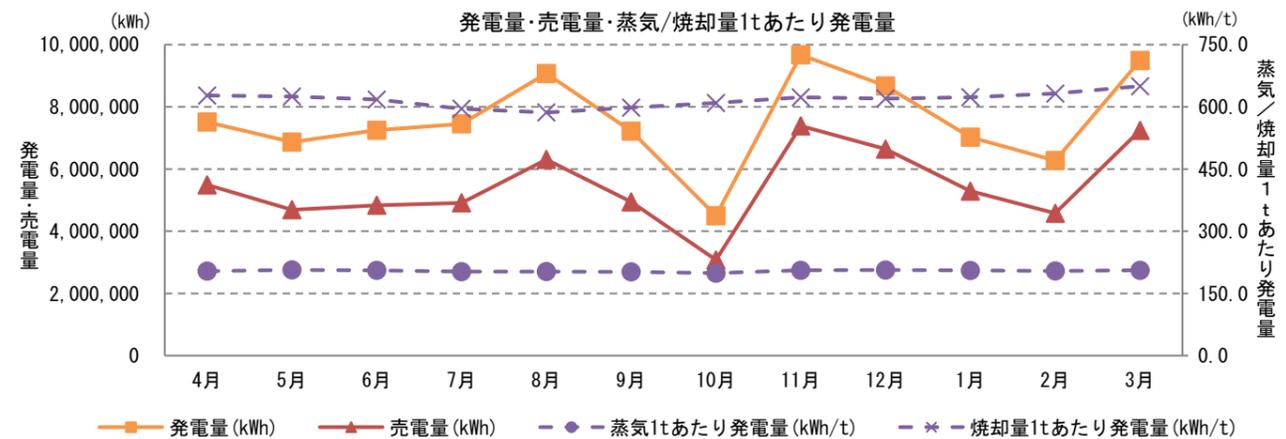
2. 事故・故障

労働災害：1件 焼却炉でのトラブル解消作業中、使用していたハンマーで右手人差し指を叩いた。
 設備・機器故障(焼却炉の停止に至ったケース)：0件

ゴミ焼却施設 火災発生件数 (消火活動を行った件数)



3. 資源化



【評価】

- 令和3年度においても、コロナ禍の影響により可燃ごみ搬入量が計画量に対し、約4,400ト減少した。また、ごみ搬入量増減の対応として、その都度ごみピット堆積量を確認しながら、ピット残量誤差の補正および焼却量の計画見直しを行い安定的な運転管理を行った。
- 規制基準において、適正かつ安定的な施設の運転維持管理により、全ての項目が基準を満たしている。

《令和4年度(2022年度)における対応》

- コロナ禍の影響により、可燃ごみの搬入量実績が増減することが想定されることから、焼却炉の運転計画については、状況に応じた変更を行い、施設の安定稼働に努める。また、ごみピット残量については、可能な限り少量を維持していくことで、災害や機器トラブルなどの不測の事態に対応できるよう調整を行う。
- 排ガス・排水などの全ての規制基準項目において、年間を通して基準を満たせるよう測定値の動向を注視し、適正な維持管理に努める。

【評価】

- 労働災害が発生した1件の定常外作業については、作業方法を見直すとともに作業マニュアルを作成し次回からの作業に備えた。
- 年間22件の火災が発生しているが、迅速かつ適切な消火活動を行ったことにより、機器への影響もなく安定稼働を行えた。

《令和4年度(2022年度)における対応》

- 作業前ミーティングを実施するとともに、業務に見合った作業マニュアルを作成し、定期的に点検と見直しを行い、労働災害ゼロをめざす。
- 適切な消火活動を行えるよう、今後も継続して消火訓練を行う。

【評価】

- ゴミ焼却施設の安定稼働により、資源化における発電量は常に高い値を維持しており、高効率発電機の性能を最大限発揮することができた。

《令和4年度(2022年度)における対応》

- 引き続き、ゴミ焼却施設の安心・安全で効率的・効果的なプラントの運転・維持管理を行うことにより、高効率で安定した発電量が確保できるよう、年間の運転計画策定に取り組む。